

猿 橋
小学校

猿 橋 小 学 校

瑳玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

いまがその時、その時がいま

校長 磯部 裕之

スペインのバルセロナある「サグラダ・ファミリア教会」。着工から140年以上の歳月を経た今でも、なお未完成のまま工事が続く壮大な聖堂の建設に、参加し続けてきた日本人がいます。彫刻家・外尾悦郎（そとおえつろう）さんです。建築家、彫刻家など約200名が働くサグラダ・ファミリアの中で、ガウディの意思を最も深く受け継いでいるといわれる外尾さん。

11月初旬、その外尾さんのドキュメンタリーをテレビで見ました。少し調べてみると、当時、25歳だった外尾青年はリュック一つでヨーロッパに渡り、このサグラダ・ファミリアに魅せられたとの事でした。信頼を得るまでに、必死で彫刻に打ち込んだそれからの年月。自分に言い聞かせてきた言葉が「いまがその時、その時がいま」。



自分自身が、サグラダ・ファミリアの職員ではなく、1回1回、契約で仕事をする請負の彫刻家として、いつも「これが、最後の仕事だ」と自分に言い聞かせて取り組んできたとの事でした。それが、今では、大きな信頼を得て、2000年に完成させた「生誕の門」が世界遺産に登録されるなど、数々の賞も受賞しています。

多くの人と技術の進歩によって育まれてきた「生きた建築」サグラダ・ファミリア。その建設に、このような日本人が携わり、しかもリードしていたなんて何だかうれしい気持ちになりました。

また、先日、新発田市生涯学習センターで開催されていた「新発田市ジュニア展」を見てきました。玄関を入ってすぐ右のところに各賞に入賞した作品が展示していました。最優秀賞は、猿橋小5年生の作品でした。タイトルは「ビルから見た風景」。細やかなタッチで遠近を描いた素敵な作品でした。見ていて、「絵が好きなんだなあ」という思いが伝わってきました。



11月14日に、猿橋小学校では児童会主催のイベント「さるはし・スペシャル・スキル発表会」が行われ、みんなで盛り上りました。途中、多くの観衆を前にたった一人で堂々と歌を発表してくれた人がいました。そして、発表後は多くの拍手に包まれました。子どもたちが安心して自分を表現し、その勇気や頑張りを称賛し合う素敵なイベントとなりました。

絵が好きな人、音楽が好きな人、運動が得意な人、ダンスが得意な人、縄跳びが得意な人、それぞれ、自分が好きなことに夢中になれる、そしてお互いがそれぞれの良さを認め合える、そんな学校になっていくように、これからもみんなで頑張ってまいります。